

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

【キリスト教教育強調週間のメッセージ】

皆さんは、人との出会いはたまたま偶然と考える事も多いと思います。客観的には確率論的なものかもしれませんが、しかし、出会いには主観的にも意味を求めたくなる出会いが人生にはあるかもしれません。私の場合は、息子2人が知的障害を持って生まれてきた事にショックで、最初は人生を恨んでいました。上記の聖句「神の業がこの人に現れるためである」を紹介された事でハッとしました。

「この息子達が障害を持って生まれてきた意味がある?」「意味があるとしたら自分は何をすべきなんだ!!」作物栽培学が専門なので、農業で障害者の雇用を見いだす運動(=農福連携)の推進活動をやる事が与えられた父親としての使命かもしれないと思い始め、不十分ではあるものの、農福連携の推進活動を続けております。

【講師の紹介】義平大樹(よしひら・たいき)先生

1965年3月兵庫県神戸市生まれ。1989年北海道大学農学部修士課程修了。北海道農業改良普及員を経て、1991年酪農学園大学附属農場助手。1998年酪農学部酪農学科へ異動。2009年同教授。2011年より農食環境学群循環農学類教授。農学博士。専門は作物栽培学。ムギ類(コムギ、ライムギ)、マメ類(ダイズ、アズキ)、トウモロコシ類(デントコーン、スイートコーン)の安定多収栽培について研究している。二人の知的障害の息子を授かったことをきっかけに39才で受洗。趣味はマラソン、コーラス、(下手な)ピアノ。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしております。

【次回の大学礼拝】2026年6月23日(火)10時40分

次回の礼拝はインドから三浦照男先生(インド・サンヒッギンボトム農工大学継続教育学部長・教授、日本基督教団派遣宣教師)をお迎えしての礼拝です。三浦先生はみなさんの先輩でもあります。インドの農業、社会、宗教等の課題について一緒に分かち合うときにしたいと願っています。

聖書 ローマの信徒への手紙5章3-5節

奨励 「インドで考えたこと——宗教の力」三浦照男

讃美歌 1-502番(いともしこし)、1-536番(むくいをのぞまで)

【前回の大学礼拝】2026年6月9日(火)

学生:119名 教職員ほか:8名 合計:127名

【大学礼拝週報】2026年度第9号(前学期第9号)

2026年6月16日(火)午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

2026年度春期キリスト教教育強調週間

《礼拝順序》

司式 小林昭博(宗教主任・循環農学類教授)

奏楽 佐藤理恵(日本基督教団野幌教会オルガニスト)

讃美指導 相原晴伴(農環境情報学類長・教授)

前奏 主イエスよ われらみことばをきかん(J.S.バッハ作曲)

讃美歌 21-475番(あめなるよろこび)

聖書 ヨハネによる福音書9章1-5節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨励 「二人の知的障がいの子を授かって
——出会いは必然と考える方が積極的な生き方ができる」

祈り 義平大樹(循環農学類作物学研究室教授)

讃美歌 21-476番(あめなるよろこび)

報告

後奏 感謝にみちて(クナープ作曲)

【本日の聖書】ヨハネによる福音書9章1-5節(新共同訳)

1さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。2弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」3イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。4わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る。5わたしは、世にいる間、世の光である。」